

# 弓道ながの

第69号

発行：長野県弓道連盟  
 会長 外園公毅  
 〒399-4117  
 駒ヶ根市赤穂10214-4  
 TEL0265(83)5206  
 編集：県弓連  
 印刷：成進社

## 巻頭言

### 私と弓道

長野県弓道連盟副会長 松島 貞治



この度副会長に選任されました。よろしくお願ひします。弓と長く付きあっています。が県弓連行事や大会等にあまり参加していませんので知らない方が多いと思います。そこで、私の弓道歴を紹介させていただきます。

高校卒業後、地元泰阜村役場へ就職しました。飯田地方は、弓が盛んで、役場にも弓具があり、見よう見まねで遊んでいましたが昭和五十一年、二十七歳の時に初段に合格、四段までは何とか到達しました。その後、昭和五十四年ころですが、誰かに教わらなければここまでだろう、と思うように

なりました。その前年、昭和五十三年が長野「やまびこ国体」で、飯田女子高校が少年女子で遠的、近的を制覇した年です。私は、飯田女子の当時の監督高畠成中氏に一筆啓上し教を乞いたいと頼みました。が、先生から社会人の面倒はみられないと断られました。あきらめきれず、そこを何とかと懇願し、そこまで言うなら、ということでも承諾してもらいました。ただし、生徒と同じように厳しくやるので、と言われ、分かりましたということ。以後、片道二十五キロ離れた飯田女子の道場へ、行けないときは、夜、先生が稽古をされる豊丘、高森の道場へ足を運びました。昭和五十五年からのことです。昭和五十四年は二女が誕生した年、つまり、わが家も大変な時でしたが、

家庭を顧みず弓を担いで出歩いてばかりの毎日です。長女は、しばらく私の仕事は弓道と想っていたようですから想像がつくと思います。そんな時代を振り返るといまでも家で肩身の狭い思いです。一方、弓はそのおかげで五段も合格し、昭和五十九年には、国体へも出場させていただきました。もっとも中つたのが次の六十年だと思うのですが、この年は、二次予選で敗退し選手になれませんでした。本国体で長野県成年男子が遠的優勝、近的二位で総合優勝に輝きました。振り返って、私が行っていたら優勝はできなかったと思います。この年の予選もそうですが、国体本番でも大事などころで必ず外す、年齢を重ねた今も同じでほんとは小心者で弱い人間だからです。その後、日本選手権の代表目指して六十歳まで挑戦しましたが、錬士の頃の一次予選九位くらいが最高で点数も出ず、選手権県代表は遠い世界でした。弓が下手というか、その実力がなにか、その身に染みて現在に至っております。



この間、平成六年に泰阜という小さな山村ですが、諸事情で村長選挙に立候補、弓道仲間の皆さんの応援もあり、何とか当選し、これでしばらく弓も休みか、と諦めたのですが、うまくいかなことばかりでせめて弓くらい引こうと思ひ、それが心の支えとなり続けることができました。村長職の間は、弓連の手伝いもせずにきましたが退任後こうした役職を与えられ申し訳なく思ひます。いまは、地元泰阜の弓道仲間の確保、そして力もありませんが、せめて会長の足手まといにならないように働かなければと思ひています。と同時に、弓道修練の最終目標は、人間完成といいながら、実に難しい人間模様の中で役員として経験を積んでいきたいと思ひます。

# 退任にあたって

中信地区担当 前副会長 百瀬 正



平成三十一年二月の評議員会で長野県弓道連盟副会長を退任することになりました。

平成一十七年長野県弓道連盟会長外蘭公毅先生の下、広報部も担当となりました。広報部長荒川保先生そして部員の方々に任せっぱなしで大変申し訳なく思っております。広報部の仕事は「弓道ながの」の年四回の発行、インターネットへの掲載、そして長野県弓道連盟七十年の歴史を記録する大切な部署です。自負を持ってこれからも頑張ってください。

平成一十七年長野県弓道連盟会長外蘭公毅先生の下、広報部も担当となりました。広報部長荒川保先生そして部員の方々に任せっぱなしで大変申し訳なく思っております。広報部の仕事は「弓道ながの」の年四回の発行、インターネットへの掲載、そして長野県弓道連盟七十年の歴史を記録する大切な部署です。自負を持ってこれからも頑張ってください。

歴代会長先生はじめ関係する弓士の方々のお力添えで今日を迎える事が出来ましたことに心から感謝申し上げます。

思い起こせば、平成十一年松本支部長、平成十三年理事を務めさせていただきました。

平成二十三年一月土川俊市先生会長就任のあと副会長を命ぜられ通算十八年余お世話になりました。

平成三十年には長野県体育協会より有功章表彰、同年十一月長野県弓道連盟より表彰状を授与され受賞者代表として謝辞を述べさせていただきました長い弓道人生に花を持たせていただき厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

平成二十三年審査部担当となり審査部長押金孝先生の補佐をし新会員管理システム導入に伴い勉強会の開催、ミ

スのない運用を心掛けてきました。大変な仕事をされている部員の方々そして退任された押金審査部長、長年ありがとうございました。新任の篠澤英次先生よろしく願います。

平成一十七年長野県弓道連盟会長外蘭公毅先生の下、広報部も担当となりました。広報部長荒川保先生そして部員の方々に任せっぱなしで大変申し訳なく思っております。広報部の仕事は「弓道ながの」の年四回の発行、インターネットへの掲載、そして長野県弓道連盟七十年の歴史を記録する大切な部署です。自負を持ってこれからも頑張ってください。

部内の和を持つための広報部、審査部合同の親睦会、帝産ロッヂでの合宿等楽しいことも思い出として残っております。

これからは健康に注意し微力ながら長野県弓道界発展に寄与していきたいと思っております。

最後に長野県弓道連盟の益々のご発展と役員各位のご健勝とご活躍を心から祈念し退任のご挨拶といたします。

# 副会長退任の挨拶によせて

南信地区担当 前副会長 宮坂 博之



今二月の初め。でも今年はずいぶん暖かい冬が来ています。諏訪湖はまったく凍っていません。このままですと、きつと梅も桜も早い春を迎えることになると思います。さて、副会長の退任の挨拶を、と言うことですが、たまたま一緒に指導部長も兼任してましたので、合わせて退任のご挨拶とお礼を申しあげたいと思っております。

今二月の初め。でも今年はずいぶん暖かい冬が来ています。諏訪湖はまったく凍っていません。このままですと、きつと梅も桜も早い春を迎えることになると思います。さて、副会長の退任の挨拶を、と言うことですが、たまたま一緒に指導部長も兼任してましたので、合わせて退任のご挨拶とお礼を申しあげたいと思っております。

南信地区の副会長を外蘭会長の下で二期四年、指導部長は前土川会長の時から四期八年務めさせて頂きました。副会長としても、指導部長としても、とてもそんな器ではないと、今でも思っています。時の経つのは早いもので、何も出来ないまま時だけが過ぎてきてしまったように思います。会員皆様のために、副会長として何が出来るのか？ また、指導部長として何が出来るのか？

焦る気持ちだけが唯々過ぎてきてしまった様に思います。副会長は春と秋の式段以下審査会を運営しなければなりません。審査が終わるたびに結果を見ながら、本当にこれで良かったのかと悩みもしました。指導部長としても、講習会の質を上げ、参加して頂ける会員に、少しでも役に立てればと計画を立て行ってきました。「講習会面白かった」「勉強になりました」「次も楽しみにしています」の声に励まされ、講習会を支えてくれた皆さんのおかげでここまで来ることが出来ました。きつと不満や理解不明なことも沢山あったことでしょう。言いたいことも沢山あったと思いますが、どうぞお許し頂きたいと思っております。

また会長には、行き届かない副会長で色々とお迷惑をお掛けいたしましたことお詫びいたします。そして副会長を支えて頂きました南信地区の役員と会員の皆様にお礼申し上げます。更に、指導部を支えて頂きました「指導部員」の方々は、先二期、今の二期と大勢の部員に支えて頂きました。バタバタと追われるだけで指導部として、何も恩返しも出来ませんでした。皆さんと一緒に指導部の活動が出来たことに心から感謝いたします。本当に有難うございました。

最後に皆様のご健康とご活躍を願い、退任の挨拶とさせて頂きます。





指導部長  
新津 一夫

今年度より宮坂前指導部長の後任となりました新津です。

率直に申し上げ、今の思いは長年御活躍いただいた宮坂先生の後の部長が私に務まるのが、不安な毎日であります。

ですが大きな救いは、前任の指導部員であった方が、今期も快く引き受けて下さった事に感謝しておりますとともに、指導の流れ・役割をよく知っている先生方と運営していける事がとても心強くありがたいと思っております。

さて、指導部の一番大切な活動は全日本弓道連盟の伝達事項の伝達講習会(上級・中級)、全弓連の審査(又は連合審査)を受審するのに必要な講習会の企画・運営です。

これらの講習会は、会場の手配、通知から申し込み者の名簿作成、講師の委嘱等、指導部員の仕事は大変だと思えますし、どの部も県弓連運営のため、大変な活動だと思つと同時に、県弓連発展のための各事業部活動であると思えます。

昔は伝達講習会に参加する事が楽しみでした。それは普段お目にかかれない先生方、又は人達の射が拝見出来る事が私にとっては年に一度のイベントであった

気がします。

講習会での教え、又他の先生方はこうして引いている(見取り稽古道場に帰り早速、試して、工夫して、何回もやり直して、自分出来る事や周りの人たちとの稽古等が、今の私を育ててくれたのだと深く思っています。

今は土川先生、外菌先生、前任の宮坂先生方とご相談しながらの活動になると思いますが、長野県弓道連盟の一員として少しでもお役に立てればと思っております。どうぞよろしく願います。



競技部長  
内山 喜照

### 新事業年度に向けて

今年度より競技部長を務めることになりました諏訪支部の内山です。前任の中野先生から受け継いで、年五回の県連主催の競技会を取り仕切ることになりました。若輩者ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

競技会の主役はなんといっても選手のみなさんです。選手の参加なしには競技会は成り立ちませんし、選手の活躍で競技会は盛り上がりします。できるだけ多くの選手が参加したくなるような競技会の

運営を心掛けます。また選手が日ごろの練習の成果を発揮し、思う存分活躍できる舞台を用意するのも競技役員役割です。

同時に競技会の運営は公平公正でなければなりません。競技規則に則って、選手全員に公平に勝つチャンスがあり、できるだけ有利不利がないように運営をします。県主催の公式競技会としての格式を重んじながら、長野県のナンバーワンを決めたり、全国大会の代表選出を行ったりしていきます。

二〇二七年には長野国体の開催が予定されています。全国から二百名超の選手が集い、日本一の覇権を争います。この大会の運営には二百名近い競技役員を動員しなければなりません。この五十年に一度の一大イベントに向けて、全国レベルの競技運営と一緒にやっていたたくスタッフを育成していきます。それを見越して県の競技会も全国大会に準じた試合形式、進行、対応を検討していきます。

大会の運営には各支部、各会員のご協力が欠かせません。競技部員が中心となりますが、大会を開催する近隣地区支部の一般会員の方々にも競技役員としてのご協力をお願いしていきます。例年同様、弓道場の整備や備品の準備等、開催会場の会員にはより一層のご協力をいただくこととなります。これまでのご協力に感謝するとともに、今年度もどうぞよろし

くお願いいたします。

当面は不慣れなこともありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、参加者にとって気持ちよく、レベルの高い競技会を目指していきますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。



審査部長  
篠澤 英次

### 審査部の果たす目的

平成三十年評議員会において審査部長に就任いたしました、篠澤(ささざわ)英次と申します。前審査部長、押金孝先生の下、審査部員として八年間県弓連の審査に携わってまいりましたが、このたび審査部長を引き継ぐこととなりました。大変な重責だと感じております。若輩者の私ではありますが、若さならではの大胆さと行動力をフルに発揮し、皆様のご協力を頂きながら任務を精一杯務めさせて頂く覚悟でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、審査部はどのようなことをしているかご存知でしょうか。簡単に申し上げますと、審査の申込みの段階から審査会が終了するまで、全面的にサポートするのが務めです。従いまして、部員

は「審査」においてエキスパートでありま  
す。と申したいところではございます  
が、まだまだ皆様のご協力なしでは成り  
立つ事が困難であります。

先日ある記事に目が留まりました。そ  
の記事には、次のことが書かれておりま  
した。「時期尚早と言う人間は、百年経っ  
ても時期尚早と言う。前例がないと言  
う人間は、二百年経っても前例がないと言  
う。時期尚早と言う人間は、やる気がな  
いということ。前例がないと言っ人間は、  
私にはアイデアがないということ。仕事  
のできない者、自らの仕事に誇りと責任  
を持ってない者は、次から次へと、できな  
い理由ばかりを探し出してくる。仕事と  
いうものは、できないことにチャレンジ  
をして、できるようにしてみせることを  
言う。」この記事を読んで改めて自分を  
戒めたところでした。

審査部は、受審者・運営者の双方が円  
滑に審査会を実施できるよう、常にやる  
気とアイデアを持ち、全力で「審査」をサ  
ポートしていくのが役割です。就任にあ  
たり、これらを念頭に置き、これからの  
新生審査部の決意といたします。

最後となりますが、今回審査部員も新た  
に三名が入れ替わりました。新生審査部  
として、本年度の審査会に取り組むこと  
になります。関係各位におかれまして  
は、今まで同様にお力添えを賜りたく宜  
しくお願い申し上げます。



強化部長  
永藤 聡

### 昨年の国体と今年

役員改選により新しい役員が決定し、  
再度強化部長を仰せつかりました永藤で  
す。強化部長となつてから今まで成功も  
失敗も数多くありましたが、そのひとつ  
ひとつを教訓に精一杯努めさせていただ  
きます。ただ組織のマンネリ化は停滞、  
もしくは悪くすると後退する事になりか  
ねませんので、本年も新しい強化部員に  
入っていただき新鮮な風が期待できる強  
化部にしたいと思えます。

さて今後に向け、昨年の国体の結果に  
ついて今まで報告させていただいた事以  
外で気がついた事を、少しくわしく書か  
せていただきます。

まず、台風。台風直撃のため、成年は  
四日間の日程が二日間に、少年にいたっ  
ては三日間の日程が一日に短縮されまし  
た。

台風でつぶれた二日間、選手は鯖江市  
や越前市の弓道場に行き、一日練習して  
おりました。最後まで練習していたのは  
長野県でした。

期間短縮のため、予選は射数を減らし  
て行われ、決勝は成年の近のみ実施さ  
れました。

決勝が行われない成年の近の以外は予  
選通過八チームが優勝という事になりま  
したが、そのため少年男女の近の予選  
通過の競射は、優勝か予選落ちをかけて  
の一本競射というとてもない競射でし  
た。

長野県は、少年男子が遠的優勝で口火  
を切り、成年男女が続いて優勝。最終日、  
成年女子が昨年遠的近的とも優勝の静岡  
県に一回選で勝ち、最後は開催県枠で出  
場の福井に勝ち三位となり国体をしめて  
くれました。

実は、その時点で天皇杯得点は長野県  
がトップでした。

最後の成年男子近的で、栃木県が最下  
位なら長野県が天皇杯一位になれるなど  
と悪い計算をしておりましたら、あれよ  
あれよと栃木県は優勝。悪巧みは完膚な  
きまでに叩きのめされたのでした。

国体はやはり少年女子を含む四チーム  
で行きたかったです。北信越他県では富  
山・石川県一チーム、新潟県0チームで  
したから、他県と比べると贅沢を言っ  
ているようですが、私の偏見と妄想では、  
弓道のレベルを比べれば明らかに長野県  
が本国体に進むのが正しいと考えます。  
あくまで偏見と妄想です。

以上、昨年の国体について書かせてい  
ただきました。本年の国体の強化は既  
に始まっております。今年は茨城国体で

す。また、本年も県内各道場を使用させ  
ていただきます。その際には弓士の皆様  
にはご不便をおかけしますが、ご協力を  
お願い申し上げます。

とりとめ無く書かせていただきました  
が、八年後に長野県に二度目の本国体  
が来ます。県体協ではそれに向けての事  
業計画も始まりました。私はまだ目の前  
の強化しか見られませんが、ひとつひとつ  
着実に実行し、成果を上げていきたい  
と思えます。二年間よろしくお願いい  
たします。



ジュニア部長  
中山 光康

### ジュニア部の活動状況

昨年度より、ジュニア部長を務めさせ  
て頂いています中山です。中・高校生の  
活動につきまして、日頃から多くの方々  
にお世話になっていいる事、改めてお礼申  
し上げます。

昨年度も多くの大会で中学生・高校生  
が活躍してくれました。北信越総体：男  
子団体 長野吉田高校 三位入賞、女子団  
体 長野日大高校 優勝と技能優秀賞。全  
国中学生弓道大会：男子個人 長野日大  
鈴木選手 六位入賞。インターハイ：男

子個人 飯田風越高校 大前選手 七位入賞。北信越新人大会：女子個人 赤穂高校 宮下選手 二位入賞。全国選抜大会：男子個人 文化学園長野高校 高木選手 七位入賞、男子団体で塩尻志学館高校 五位入賞。他に参加した個人・団体もよく頑張ってくれたと思います。

さて、最近の動きとして、中・高校生のクラブ活動に関して新たに指針が県より示されました。これは四月より実施されていきます。この指針の一番の目的は、休養日の導入と平日の活動時間の制限により、練習のし過ぎに伴う怪我の発生を無くしていきたい、とのこと。また、以前より全国高体連では体罰撲滅が強く言われておりますが、今回の新指針と併せると子ども達が身体的にも精神的にも良い状況で部活動ができるようにする事がこれまで以上に求められる時代であると感じます。

話は変わりますが、最近「部活動指導員」というものも制度化され、指導員が大会引率もできるようになりました。すでに多くの競技で活用とはいかないかと思いますが、今後、部活動が変化していくのではないかと思います。

このように状況の変化もありますが、子ども達は変わらず熱心に練習し、顧問も熱心に指導し援助しています。本年もこれらの活動に、温かいご支援をお願いします。

最後に、本年は北信越高等学校弓道大会が長野県で開催されます。会場をはじめとして何かとお世話になるかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。



広報部長  
荒川 保

### 広報部の役割

私が杉田先生から広報部を引き継いでから二期四年が過ぎました。

その間、広報紙「弓道なご」では、執筆や写真撮影などで多くの方にご協力を頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

毎回の会長、副会長の巻頭言、講習会報告、そして昇段昇格など、無理なお願ひにも原稿を断られた事があります。特に五月の京都、十一月の東京、二月の名古屋、各定期中央審査での教士昇格者は論文の提出期限のある中で、原稿の締め切りもその月の末までをお願いするなど、大変お忙しい中、誰一人として遅れることなく執筆していただけたことに感謝の気持ちでいっぱい。有り難うございました。また、亡くなられた範士の先生の思い出については、当時の記憶や写真を掘り起こして執筆頂

しました。過去には凄いい先生が沢山いらっしやった事が少しでも伝えていけたらと思います。また、執筆して頂いた方や関係者の方からお礼のお手紙など頂いたときはこちらが恐縮してしまいました。

今年度も引き続き内容の精査、充実に心がけ、その時々話題や記録の保存も使命の一つと考え紙面づくりをしていきたいと思っております。会員の皆様には無理なお願ひなどあるかも知れませんが、ぜひご協力をお願いいたします。

まだまだ会員の皆様全員にお届けするまでの発行部数には至りませんが、ホームページにも掲載しておりますのでぜひ一読していただければと思います。

そのホームページも広報部で管理更新をしております。出来るだけ多くの情報を掲載できるように随時の更新を心がけてはおりますが、担当者も仕事があり、アツプが遅れることもありましてどうぞお許しくください。ホームページは誰でも、また何時でも閲覧できる利便性はありますが、裏返せば悪意のある方が居ないとも限りません。どうぞ情報提供者の方もご留意いただければと思います。「弓道なご」にしてもホームページにしても皆様からの情報や話題の提供が基礎となっております。どうぞこれからもご協力をお願いします。

## 弓道合宿予約随時受付中！

### 野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)  
12人立2ヶ所  
遠的道場 1ヶ所

### 帝産ロッヂ

〒384-1305  
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003  
HP: <http://www.teisanlodge.com/>  
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861



弓仲間紹介

駒ヶ根市体育協会弓道部

宮澤 公利

私が駒ヶ根弓道場の門を叩いたのは六年程前になります。

転勤で県外を回り、故郷の駒ヶ根に帰って来た時に自分自身を鍛えたいなと思い、頭を過ったのが高校時代に打ち込んだ弓道でした。そう思った日の新聞に弓道教室の記事を見つけたのはまさに天啓、その日の内に申し込みました。

弓道教室に入り高校時代にご指導頂いた外薮公毅先生に再会、懐かしき高校時代に戻った気持ちになりました。

教室を経て弓道部に入部しました。当時はただ弓を引ければ良いレベルで道場に通っていました。が、外薮先生より明確な目標を持って練習する事の大切さを教えて頂き、この時を境に審査や大会を目標に、また技と心の向上を目指し日々練習に励んでおります。

近年の体協の活動で欠かせないのは若手の育成だと思えます。彼らは高校在学中から体協の練習に



顔を出してくれるようになり、社会人になっても目標を持って日々練習を欠かしません。その甲斐あって昨年は一歩目標に近づき結果が出ました。その姿を見て私も負けてられないと奮起させられました。新たな力も加わり、部員全員で弓道部を盛り上げていきたいと思えます。

私と弓道

南佐久支部 参段 小野澤 香苗

私が弓道を始めたのは高校生の時です。それより以前に何度か、従姉妹が地元弓道大会に出場していたのを親と見に行ったことがあります。その時に「いつか自分もやってみよう」と思い、高校に入学すると弓道部に入部し、そこから弓道を始めることになりました。

一年生の夏休みに初めての的に立つて矢を射た時の緊張と感動は、今でも鮮明に覚えています。的までは届きませんでした。一本から今に続く弓の道が始まった気がします。

高校を卒業してから十年以上離れてしまっていた弓道を再開したいと思いい、弓と矢、喋は高校時代に使っていたものがそのまま残っていたこと



もあり、三年ほど前に家の近くの弓道場で開催されていた弓道教室に参加し現在に至ります。

三か月間の教室の時から、道場の先生方、先輩方に丁寧にご指導いただき、高校時代の弓道と社会人の弓道の違いを改めて感じ、射技、中りはもちろんですが、体配の大切さを痛感しています。高校生の時は早急に悩んでいたこともあり、あまり審査を受けようと思っていなかったのですが、なんとなくやってみようと思いが多く、弓道を再開し、改めて教えていただきながら「あの時、もっと真剣にやっておけばよかった」と後悔しました。審査はもちろん大会の時なども、自分のタイムインクだけではなく、同じ立ちの方たちと息合いをあわせることの大切さや大変さを、その度に思い知らされます。

講習会や修練の中で、先生方に「間の取り方や呼吸を意識して」とご指摘を頂きますが、まだまだ未熟な上、昔ついてしまった癖が残っているせいか、意識してもなかなか直せずに苦労しています。

早気にも悩みながらではありますが、これからも続く弓道人生の中で、少しでも自分の目指す理想の「弓道人」になれるように頑張っていきたいと思えます。

## 矢羽の適正入手について

会 員 各 位

公益財団法人 全日本弓道連盟  
会長 中野 秀也



皆様もご存じのとおり、当連盟では、猛禽類の矢羽の違法な取引の問題について、様々な取り組みを行っております。この度、会員の方から、インターネットを通じて猛禽類の羽根が売買されているのを見たというご連絡がありました。

一般に、インターネットを通じた取引においては、匿名性の高さ等から違法な物品が安易に取引されている例も多いという指摘もあります。また、このような取引では、相手が信頼できる者かどうか、物品が適法・適正なものかどうかなどの確認が難しい場合もあります。

そこで、インターネットを通じた矢羽の取引を行おうとする場合には、取引が禁じられている羽根が含まれている可能性を常に意識し、相手から証明書類等の提示を求める等して十分な確認を行っていただくとともに、不審な取引には関わらないようご注意ください。

また、不審な取引を見つけた場合や、不審な取引に関わってしまった場合には、当連盟相談窓口まで、郵送または電子メールでご連絡ください。なお、お送りいただいた情報については、ご本人の同意がない限り、相談窓口以外の連盟関係者には開示されません。

なお、当連盟では、種の保存法やワシントン条約の規制対象となる可能性ある矢羽の使用に関して、その矢羽が適正に入手されたことを示すために「矢羽の適正入手証明書（トレーサビリティ証明書）」の作成をお願いしておりますので、ご協力ください。これらの法規制につきましては、環境省のホームページなどで内容や説明を確認することができますので、この機会にそれらの情報もご参照いただき、理解を深めていただければと考えております。

当連盟といたしましては、この問題に引き続き取り組んで参りたいと考えておりますので、会員の皆様も、ご理解とご協力をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

平成30年12月



# お礼

## 明治神宮鎮座百年祭 記念事業奉賛募金について

長野県弓道連盟会長

### 外蘭 公毅

## 募金総額五十七万八千円

七月に標記の件で会員の皆様により、多くの方からお願いをいただきましたところ、多くの団体・会員の皆様にご協力を賜り、目標五十万円を大きく超えて達成することができました。

これも偏に会員皆様のご理解とご協力があったることと厚くお礼申し上げます。

ありがとうございます。



# 大会結果

## 第74回 国民体育大会弓道競技 長野県成年男女一次選考会

○平成30年11月25日(日)  
塩尻市営弓道場

### 通過選手

- ▲成年男子 11名
  - 清水 北登(佐久)
  - 岩原 祐貴(諏訪)
  - 蟹澤 契太(上伊那)
  - 藤森千友貴(上小)
  - 浜 直樹(諏訪)
  - 小田切祐典(小諸)
  - 小木曾智成(飯伊)
  - 蟹澤 史弥(上伊那)
  - 岩村 拓生(飯伊)
  - 佐藤 拓真(小諸)
  - 飯野 勇希(諏訪)
- ▲成年女子 7名
  - 松下 瑞季(飯伊)
  - 三石奈央美(上伊那)
  - 高坂 彩水(諏訪)
  - 松尾 滢(安曇)
  - 馬場 絢音(上伊那)
  - 飯野 葵(諏訪)
  - 木下 佑紀(上伊那)

## 第37回 全国高等学校弓道選抜大会

○平成30年12月24日(月)・25日(火)・26日(水)  
岡山県総合グラウンド体育館

ジップアリーナ岡山

### 個人の部

#### ▲男子

7位 高木 渉(文化学園)

### ▲女子

5位 塩尻志学館

### 団体の部

## 三十三間堂大の全国大会

○平成31年1月13日(日)

本堂(京都蓮華王院)西側特設射場

### ▲成人男子の部

3位 岩村 拓生(飯伊)

## 第74回 国民体育大会弓道競技 長野県少年男女一次選考会

○平成31年2月2日(土)

長野運動公園弓道場

参加人数：男子246名、女子243名、合計489名

通過人数：男子31名、女子37名、合計68名

### ▲北信地区(参加人数：男子87名、女子65名)

#### ▲男子通過選手 10名

- 石塚 憩弥(飯山)
- 中村 耕太(長野高専)
- 間藤 恵志(長野高専)
- 市川 颯汰(長野日大中学)
- 小林 滉征(長野日大)
- 田口 維吹(長野日大)
- 山本 拓馬(長野日大)
- 島田 将門(長野日大)
- 高木 渉(文化学園)

### ▲徳高 尚紀(文化学園) 女子通過選手 12名

篠田 凜(飯山)

荒井絵里香(須坂)

山田沙也加(須坂東)

橋本 捺希(長野高専)

武田 彩愛(長野商業)

小林 由季(長野日大)

堀川 紗耶(長野日大)

柴田 菜月(長野日大)

中嶋 響希(長野日大)

小林 瑞季(文化学園)

諏訪戸日和(北部)

山口 瑛那(屋代)

### ▲東信地区(参加人数：男子39名、女子54名)

#### ▲男子通過選手 5名

- 丸山 武琉(上田)
- 杉原 大樹(上田千曲)
- 関 大吾(上田東)
- 菊池清治郎(野沢北)
- 小池 大知(野沢南)
- ▲女子通過選手 7名
  - 井出 遥(岩村田)
  - 依田 想来(岩村田)
  - 瀧澤 実咲(上田)
  - 池本 乃依(上田染谷丘)
  - 小林 鈴佳(上田染谷丘)
  - 秋穂 江美(野沢北)
  - 大井 明音(野沢北)
- ▲南信地区(参加人数：男子49名、女子33名)  
男子通過選手 7名
  - 平澤 奎(阿南)
  - 岸 旭飛(伊那弥生ヶ丘)
  - 二山 大陸(岡谷東)
  - 柳澤 知輝(岡谷東)
  - 高木 優人(岡谷南)

- 小林 征史(駒ヶ根工業)
- 篠原 和真(東海大諏訪)
- ▲女子通過選手 6名
- 平澤 玲奈(赤穂)
- 吉田 凜音(赤穂)
- 大場 空乃(赤穂)
- 三輪真由奈(岡谷南)
- 小林 琴音(伊那弥生ヶ丘)
- 小松 未来(伊那弥生ヶ丘)
- 中信地区(参加人数:男子71名、女子91名)
- ▲男子通過選手 9名
- 小池 将弘(木曾青峰)
- 井原 迅(塩尻志学館)
- 佐々木駿斗(塩尻志学館)
- 松村 優太(塩尻志学館)
- 小澤 章太(松商学園)
- 三浦 颯悟(松商学園)
- 高橋 悠生(松本県ヶ丘)
- 多賀 結人(塩尻志学館)
- 宮澤 一真(松本県ヶ丘)
- ▲女子通過選手 12名
- 秋野 愛弥(明科)
- 向山 怜(木曾青峰)
- 井出 妃咲(木曾青峰)
- 山越 聖菜(木曾青峰)
- 川上 優奈(塩尻志学館)
- 北澤 奈美(松商学園)
- 坂井 歩(松商学園)
- 林 萌香(松商学園)
- 平野 歩実(松商学園)
- 太田 望友(松本県ヶ丘)
- 赤羽 菜織(松本県ヶ丘)
- 中條 愛果(松本美須ヶ丘)



中野冬季百射会

- 平成31年2月17日(日) 中野市弓道場
  - 一般個人(の部)(100射)
  - 1位 西澤 徹(大北)
  - 2位 生田 憲克(長野)
  - 3位 笠井 信雄(善光寺)
  - 4位 大竹 洋平(六日町)
  - 5位 宮島さおり(長野)
  - 5位 市川 則江(善光寺)
- 68中  
65中  
63中  
61中  
59中  
59中

表彰

○平成31年  
長野県体育協会より表彰  
スポーツ振興功績者  
山浦 博(教士六段、佐久支部)  
備考 平成31年3月25日に  
県庁にて表彰されました。

昇段昇格者

◇「名古屋」定期中央審査会  
▽六段の部 平成31年2月11日  
宮島さおり(長野支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 松本支部  
教士八段 小岩井八重子(96歳)  
平成31年1月24日(木)  
ご逝去されました。

長野県弓道連盟 長野支部  
教士七段 丸山 忠孝(91歳)  
平成31年1月28日(月)  
ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
お知らせ申し上げます。

弓道文化

弓道は道具を用いる武道なので、  
まずと弓具に関心が向く。弓具は先人が  
これだよという形まで進化した後  
形を変えること無く現代まで続き、昔  
も今も変わらない性能を維持している。  
世の中、道具というのは誰でも使いや  
すく、使えば一定の性能がでるように  
進化するので、古いままというのは、  
ある一定以上の性能を出そうとすると  
それなりに扱いが困難ということだ。  
扱いが難しいということは、使う人  
の習熟度によって発揮される性能も異  
なるということ、つまり、扱い方自  
体もそうだが、上手になっていく過程  
にも個性がでやすい。それこそ十人十  
色だろう。

工業化の時代、誰がやっても同じく、  
大量に、速くが目的なので、面倒なこと、  
習熟に時間がかかりそうなものはすべ  
て改良、排除され、オートメーシ  
ン化が進んできた。さらに21世紀は情報  
化の世界。実在の物との関わり合いが  
さらに希薄になりつつある。

弓は、工業化とは真逆の方向に進み、  
自身の性能の担保を扱う人の習熟度に  
任せている。自動化が進むと便利には  
なるが、それを扱う人間の感覚は退化  
する。そういう意味でも弓道は現代人  
に基本的な感覚を要求するよい武道だ  
と思う。

上伊那支部 手塚信一郎